

カヤネズミ

指定区分	天然記念物 動物
正式名称	ホンシュウカヤネズミ
生息地	「カヤネズミは河川敷の動物」というイメージでとらえられていましたが、カヤがあればそんなに広い面積がなくても繁殖が可能です。ヘビなどの天敵に対して比較的安全な巣をつくるので、意外と広く分布しています。 松川町では、天竜川の河川敷から生田柄山あたりまで生息を確認しています。
概要	ハツカネズミよりさらに小型、頭から背中にかけて赤褐色、腹部は白色です。尾が体より長く先端は裸出しています。その尾をススキやオギに巻き付け軽快に渡り歩かことができます。 「ネズミ」というと害獣のイメージが強いが、カヤネズミは草原で昆虫や草の種子を食べてひっそり生活しているので実害はあまりないように思われていますが、生田の中山などでは稲に営巣したという報告があるので、ある程度の害はあるかもしれません。 繁殖期にはカヤの葉を丸めてテニスボール大の巣をつくり、子育てをします。



文化財保護審議委員 宮下 稔氏提供

モモンガ

指定区分	天然記念物 動物
正式名称	ホンシュウモモンガ
生息地	図鑑では「亜高山の森林を中心に生息」とあるが、下伊那では標高 600m程度の人里で生息が確認されています。 松川町の山林に設置した巣箱を利用して生息しています。
概要	前脚前肢と後肢の間に皮膜があり、ムササビほどダイナミックではないが滑空することができます。目が巨大で、暗闇で行動するのに適応しています。木の芽や葉、果実など食べてひっそりと暮らしています。



文化財保護審議委員 宮下 稔氏提供

カモシカ

指定区分	天然記念物 動物
正式名称	ニホンカモシカ
生息地	人里付近の林から亜高山帯まで広く分布しています。
概要	ウシ科で大きさはヤギ程度。草や落葉樹の葉が主食であるが冬場は針葉樹や笹なども食べているようです。かつて、良質の毛皮や肉を求めて乱獲され「幻の動物」といわれるほどまで減少してしまいました。しかし、「天然記念物」に指定されてから分布を拡大、その結果、植林した幼木を食害するなど被害が拡大、昭和 50 年代には、食害防止の対策として捕獲が許可されました。ところが、最近森林に甚大な被害を与えている真犯人はニホンジカらしいことがわかってきました。



上片桐山堤のモリアオガエル

指定区分	天然記念物 動物 両生類
生息地	モリアオガエルの生息地では、飯田市上郷野底川上流の「蛙沼」が周辺の環境と合わせて、県の天然記念物に指定されています。飯田下伊那地域では西南部地域の各市町村に生息していますが、北部地域では、今までに高森町「山の寺」及び大鹿村青木で確認されていたのが北限でしたが、平成 26 年 6 月に山田拓氏により松川町上片桐「山堤」にて確認され、現在、当地方の最北端の生息地となっています。上伊那・諏訪地方では生息例がありません。
概要	両生類無尾目アオガエル科のモリアオガエルは、池などの水面上に張り出した樹木の枝葉に泡立てた卵塊を作りながら産卵することで知られています。時には 1 匹のメスに複数のオスが抱接して卵塊を作ることもあります。卵塊の中では卵からオタマジャクシ（幼生）へと成長し、10 日余りで卵塊が崩れ、オタマジャクシは水中に落下して池での生活を始めます。モリアオガエルの親（成体）はメスの方が大きく体長が 10cm 近いものもいます。当地方のモリアオガエルは背面が濃緑色～黄緑で斑紋を持つものが多い。



文化財保護審議委員 小椋 吉範氏提供

山堤のモリアオガエル卵塊

H27 年撮影

文化財保護審議委員 宮下 稔氏提供

生田のハッチョウトンボ

指定区分	動物 昆虫
生息地	生田中山の元塩倉線入り口の洞（休耕田）に生息します。 出現しない年もあります。
概要	ハッチョウトンボはトンボ目トンボ科のトンボで体長が 2cm 程度であり、世界最小のトンボの一つとされています。オスは鮮やかな赤色で目立つが、メスは地味なまだら模様。平成 17 年に現在の場所から 20m ほど離れた湿地で 10 数匹を確認していますが、この場所では平成 25 年に数匹、平成 26 年は確認できず、平成 27 年にはメスを 1 匹だけ確認しました。セイタカアワダチソウなどが繁茂進出していること、土手崩れによる排水で湿地が乾燥気味となり環境が変わりつつあることで今後生息が出来なくなる可能性があり、地主の許可を得て、セイタカアワダチソウなどの刈り取りをしたり、畦シートなどで保水したりして湿地の保護を試みています。



ハッチョウトンボ♂



ハッチョウトンボ♀



H27年 1匹確認

生田のゲンジボタル

指定区分	動物 昆虫
生息地	生田中山の元塩倉線入り口の洞（休耕田）に生息します。 この洞の他にも生息地が多くあり、平成 27 年には塩倉にて多数（30～40 匹）の飛翔を確認しました。
概要	ゲンジボタルは発生数に多少はあるが、数十年来生田中山に生息しています。 ここのゲンジボタルは他所から移入したものではなく、昔から生息していた個体であることに遺伝子的な価値があると考えられます。



生田のゲンジボタル H27年 塩倉にて撮影



白色のミツバツツジ

指定区分	植物
生育地	生田中山の通称「石荒らし」に2株生育していました。30年ほど前に1株が盗掘されたのを機に、人家近くの安全な場所に移植しその後順調に生育しています。
概要	<p>ミツバツツジの白化現象（アルビノ）と言われています。下伊那地方はミツバツツジが多く飯田市などは市の花に指定しています。生田も岩場などに多く「イワツツジ」との別称で呼ばれてきました。他所で白色のミツバツツジを見ることはなく貴重な1株です。</p> <p>植物に詳しい先生は「シロバナミツバツツジ」と命名するのがよいのではないかとのこと。挿し木などで増やすことを試みっていますが、発根しない。</p>



コバノミツバツツジ

指定区分	植物
生育地	松川町生田中山の小椋家裏山に一株生育
概要	ミツバツツジよりも5日程遅く開花します。ミツバツツジはおしべ5本ですがコバノミツバツツジは、おしべが10本ありコバノミツバツツジまたはトウゴクミツバツツジと判断していました。最近、堤久先生に同定していただいたところ、めしべの基部に毛状の粒がありコバノミツバツツジと同定されました。このツツジは飯田以北には珍しい。挿し木などで増やすことを試みていますが、挿し木では発根しない。



ミツバツツジ (右の株) の花が散ったころ、コバノミツバツツジは満開となります。



文化財保護審議委員 小椋 吉範氏提供